

児童一人一人が主体的に活動できる児童会活動の在り方

日上市立中小路小学校

1 はじめに

本校は全校児童112名から成る小規模校である。また、各学年単学級でクラス替えもなく、人間関係が固執化してしまう傾向にあった。そのため、人間関係の改善及び人間力の育成という点においてたてわり班による異年齢集団活動に力を入れている。低学年の頃から高学年に優しくサポートしてもらっていた児童は、高学年になると低学年に対して優しく接しあげることができるようになっていく。そんな本校の実践を一つ紹介する。

2 資料

(1) たてわり班スポーツ大会(たてわり鬼ごっこ・たてわりドッジボール・8の字跳び)

本校の特別活動の特色の一つとして、たてわり班による活動がある。毎年、友遊タイム(ロング昼休み)を活用し、たてわり班によるスポーツ大会を実施している。1学期にたてわり班鬼ごっこ・2学期にたてわり班ドッジボール大会、3学期はたてわり班8の字跳び大会を実施した。6年生を中心に1年生～6年生まで協力して活動することができている。また、各班で役割分担や作戦等を考え、それぞれの様々な作戦や工夫が見られた。学期ごとの大会では、高学年が低学年の面倒を見ながら班の仲間を並ばせたり大なわの跳び方を教えたりしており、本番では力を合わせて競い合ったり、応援したりする姿を多く見ることができた。どの学年の児童も楽しく活動しながら、児童一人一人の主体的な態度や仲良く協力する心が育ってきている。



たてわり班鬼ごっこ



たてわり班ドッジボール大会



たてわり班8の字跳び

3 成果と課題

- ・高学年が中心となって計画や運営などを行い、主体的に活動することが出来た。
- ・様々な学年の児童同士が関わることで、学級の中とはちがう役割や活躍の場も生まれ、自己有用感を味わうことのできる活動となった。
- ・今後は、高学年だけでなく様々な学年の意見を取り入れながら計画を進められるようにするためにも、代表委員会を活用し、更なる充実を図っていきたい。